

プログラム

謝辞とまとめ

日本IBM株式会社 理事 金岩和利

皆さま、こんにちは。最後になりますが、日ごろ皆様に地元で大変お世話になっております社員を代表しまして、皆様への御礼と本日のまとめをさせていただきますと思います。

まず、本日は大変お忙しい中を、最後まで大変ご熱心に当IBM環境シンポジウム2002にご参加いただきまして、本当にありがとうございました。当会場の約300名様に加え、全国各地の職場あるいはご家庭からインターネットを介してe-meetingという形でも多数の皆様に参加いただきました。

また、ご講演をいただきました講師の皆様、先ほどのパネルディスカッションに参加していただいた皆さま、それぞれのお立場から素晴らしいご意見やお話を賜り、心から感謝の言葉を述べさせていただきます。

さて、21世紀を迎えて地球環境保全が全人類の課題とされている今日、私たち一人ひとりがそれぞれの立場からこの問題に取り組んでいくことが求められています。

本日は冒頭の私どもの大歳社長、井上四日市市長様のご挨拶に続き、環境先進県創りを目指されている北川三重県知事自ら、そして環境経営を実践されておられるリコー株式会社の紙本副社長様からご講演をいただきました。また、午後には三重県の環境活動を林業家の吉田様、地元四日市市の取り組みを味の素株式会社の坂本様、企業の取り組みとして三重リコー株式会社の松下様、そしてココヨ株式会社の麴谷様からご紹介いただきました。本当にありがとうございました。

今回で第3回目になります当シンポジウムのテーマを振り返ってみますと、第1回目は全世界で事業活動を行っているIT企業であります私どもIBMが1960年代から取り組んできました環境活動をご紹介して、企業として循環型社会形成のために何をなすべきかをテーマにさせていただきました。昨年は北九州での開催を機に、当社だけではなくて企業同士が協業し、また行政、学会、市民との協業を進めることをテーマとし開催地の行政、学会、企業の皆さんに企画いただきました。そして今回は、企業、行政、市民の環境への取り組みを具体的にご紹介するとともに、協業体制をさらに進めていくことをテーマとさせていただきました。

國部先生にコーディネーターをしていただきました先ほどのパネルディスカッションでは、産・官・学・民が一体となった環境への取り組みをテーマとして討議されましたことは、参加者の皆様のこれからの環境活動に貴重な示唆をご提供できたものと確信しております。

最後に、日本IBMでは「社会と共に」を社是としており、環境への取り組みも社会の要求に応えるとともに、継続して取り組んでいくことが大切であると考えております。一昨年からはじめました当環境シンポジウムは、当社のこのような考え方を実践する場だと思っております。来年も、再来年もこのような場を設け、社会と共に行動して行きますことをお約束させていただきます。

本日は長時間、最後まで積極的にご参加いただきまして、大変ありがとうございました。(拍手)

